

4. 調査、予測及び評価の項目

4.1 調査、予測及び項目の設定

早明浦ダム再生事業における調査、予測及び評価項目は、表 4-1 に示すとおりです。

表 4-1 早明浦ダム再生事業における調査、予測及び評価の項目

環境要素の区分		影響要因の区分			工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用			
		放流施設の増設等工事	工事用道路の設置の工事	施工設備及び	建設発生土の処理の工事	導流壁及び減勢工等の存在	道路の存在	建設発生土受入地の存在	再生事業後の供用		
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	粉じん等(降下ばいじん量)	○							
		騒音	騒音	○							
		振動	振動	○							
	水環境	水質	水質	土砂による水の濁り(SS*1、濁度)	○						○
			水温								○
			溶存酸素量								×
			水素イオン濃度	○							
			富栄養化(窒素、リン、クロロフィルa、COD*2、BOD)							×	
	地形及び地質	重要な地形及び地質					○				
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地				○					
	植物	重要な種及び群落				○					
	生態系	地域を特徴づける生態系				○					
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観					○				
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場(変更の程度、利用性の変化、快適性の変化)					○				
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物			○						

注 1.○：省令の参考項目のうち選定した調査、予測項目

2.×：省令の参考項目ですが、影響を受けるおそれがないと考えられるため、選定しない調査、予測の項目

水質のうち溶存酸素量は放流時に再曝気されると想定されるため予測評価項目としません。また富栄養化についても、早明浦ダム貯水池の富栄養化レベルが低いため予測評価項目としません。

3.空白：省令の参考項目にない項目

※1 SS：浮遊物質(suspended solid)の略称で、水の濁りの原因となる水中に浮遊・懸濁している直径1μm~2mmの粒子状物質のことで、粘土鉱物や有機物等に含まれています。

※2 COD：化学的酸素要求量(chemical oxygen demand)の略称で湖沼や海の水等に含まれる有機物を化学的に酸化するときに消費される酸素量(有機物量の指標)です。

4.2 調査、予測及び項目の選定理由

早明浦ダム再生事業における調査、予測及び評価の項目として、選定する理由は、表 4-2 に示すとおりです。

表 4-2 調査、予測及び評価の項目の選定理由

環境要素		環境要因区分 ^{※1}	想定される環境影響	
大気環境	大気質	大気質	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う粉じんにより、生活環境が影響を受ける可能性があります。
	騒音	騒音	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事中における建設機械の稼働や工事用車両の運行に伴う騒音、振動により、生活環境が影響を受ける可能性があります。
	振動	振動	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う濁水の発生、水素イオン濃度の変化により、生活環境や水利用が影響を受ける可能性があります。
水環境	水質	水質 ^{※2}	工事の実施	再生事業後の供用に伴う濁水の発生日数の変化、水温変化等により生活環境や水利用が影響を受ける可能性があります。
			再生事業後	水質のうち溶存酸素量は放流時に再曝気されると想定されるため予測評価項目としません。また富栄養化についても、早明浦ダム貯水池の富栄養化レベルが低いため予測評価項目としません。
地形及び地質	地形及び地質	再生事業後	対象事業実施区域周辺には重要な地形及び地質はありませんが、参考としてまとめます。	
動物	重要な種及び注目すべき生息地	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う直接改変や、水質の変化等により、重要な種及び注目すべき生息地が影響を受ける可能性があります。	
		再生事業後	導流壁及び減勢工等の存在、道路の存在、建設発生土受入地の存在による直接改変や、再生事業後の供用による水質の変化等により、重要な種及び注目すべき生息地が影響を受ける可能性があります。	
植物	重要な種及び群落	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う直接改変や、水質の変化等により、重要な種及び群落が影響を受ける可能性があります。	
		再生事業後	導流壁及び減勢工等の存在、道路の存在、建設発生土受入地の存在による直接改変や、再生事業後の供用による水質の変化等により、重要な種及び群落が影響を受ける可能性があります。	
生態系	地域を特徴づける生態系	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う直接改変や、水質の変化等により、地域を特徴づける生態系が影響を受ける可能性があります。	
		再生事業後	導流壁及び減勢工等の存在、道路の存在、建設発生土受入地の存在による直接改変や、再生事業後の供用による水質の変化等により、地域を特徴づける生態系が影響を受ける可能性があります。	
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	再生事業後	導流壁及び減勢工等の存在、道路の存在、建設発生土受入地の存在により、影響を受ける主要な眺望景観はありません。ただし、早明浦ダムは、管理開始後46年が経過しており、ダムを見に訪れる方も多く、地元では観光資源として利用されているため、早明浦ダムを望む眺望景観の状況を対象としました。	
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	工事の実施	放流施設の増設等工事、施工設備及び工事用道路の設置の工事、建設発生土の処理の工事に伴う直接改変や、水質の変化等により、主要な人と自然との触れ合いの活動の場が影響を受ける可能性があります。	
		再生事業後	導流壁及び減勢工等の存在、道路の存在、建設発生土受入地の存在による直接改変や、再生事業後の供用による水質の変化等により、主要な人と自然との触れ合いの活動の場が影響を受ける可能性があります。	
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	工事の実施	建設工事に伴う副産物が発生する可能性があります。	

※1：環境要因区分の「再生事業後」とは、早明浦ダム再生事業完了後における「土地または工作物の存在及び供用」を指します。

※2：貯水位の変化については、以下の理由により予測の対象とはしておりません。

①工事中も通常のダム運用を行います。

(再生事業の工事のため一定期間貯水位を低下させてダム運用をすることはありません。)

②容量振替(700万m³)に伴う平常時最高貯水位の低下(0.8m~1.0m)が生じるものの、例年の貯水位の年変動の範囲内であり、また、洪水時最高水位、最低水位は従前と変わりません。